

利用者の笑顔広がる
クリスマス会

清

水友愛の里で12月25日、クリスマス会を開きました。今回も昨年と同様、新型コロナウイルス感染症対策のため設備の消毒、健康チェックなどを徹底しました。

一年で最後の行事を利用者に楽しんでもらうため、職員全員でアイデアを出しました。女性の利用者や職員が作った飾りで会場を彩り、



クリスマス会の食事を楽しむ参加者

当日はムード満点となりました。

利用者が開会式の司会を務め、乾杯の音頭を取ってスタート。食事のメニューは利用者のリクエストをもとに栄養士が考案しました。クリスマスツリー型のピラフ、シチュー、フライドチキン、サンドイッチなどボリューム満点の食事がテーブルに並び、みんなに喜ばれました。

また、料理人がメインメニューのステーキを実演コーナーで焼きました。目の前で焼かれるステーキを見た利用者は目を丸くしたり、「美味しそう」「いい匂い」などと話しながら笑顔を浮かべていました。

デザートはアイスクリームコーナーでは、アイスにチョコチップなどをトッピングして喜んでるのがとても印象的でした。最後にお待ちかねのイチゴショートケーキを提

供し、最後まで笑顔が絶えない食事となりました。

余興は利用者が好きなビンゴゲーム大会。職員が数字を読み上げると「あったー」「ないわ」などと大変盛り上がりました。当選した利用者は景品を持ち、ステージの上で記念撮影。万歳三唱と紙吹雪でクリスマス会の幕を閉じました。

終了後は、今年もサプライズでサンタクロースとトナカイが登場しました。サンタが中庭を車で一周してさっそうと現れると、利用者からは歓声が上がリ、「早くプレゼントをちょうだい」などの声が聞かれ、雰囲気は最高潮。サンタが一人一人にプレゼントを渡しました。その場で開け、うれしそうに感想を職員に伝えてくる利用者の様子は、いつ見ても良いものだと感じました。

来年こそはコロナが収束し

て普段の生活が戻り、全ての行事が開催できることを願っています。皆さんがより笑顔で楽しめるように、職員一丸となって今回以上の内容のクリスマス会を実施したいと思えます。

一年の健康を願って

新年交流会

サポートステーションゆうあいで、1月4日に新年交流会を行いました。司会の職員は巫女の格好をし、会場入り口には鳥居も設置しました。会食では、正月にふさわしい豪華なサケの親子丼など美味しい料理にみんな舌鼓を打ちました。

午後はおみくじを行いました。利用者は内容を見て今年の過ごし方を考えたり、「新しい出会い」の文章に胸を膨らませたり、「施設長と握手をする」と書かれたおみくじを引く「と書かれたおみくじを引いて恥ずかしそうに握手を見たりと、さまざまな反応を見

せながら楽しんでいました。おみくじの後は獅子舞の登場。獅子舞の練り歩きにビツクリして避けてしまう人もいましたが、頭をかまれ、邪気を食べてもらって疫病退治もでき、新年も健康に過ごす事ができそうです。

獅子舞の後は、利用者が年末に書いた絵馬を紹介しました。「腕上げ運動を頑張る」「健康で過ごしたい」などさまざまな絵馬があり、自分で書いた内容を覚えて頑張ろうと改めて決意しました。職員も利用者と一緒に絵馬に書いたことを胸に日々精進したいと思います。



獅子舞などが行われた新年交流会